

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070801800		
法人名	有限会社 D&Mコーポレーション		
事業所名	グループホーム いやし屋本舗		
所在地 (電話番号)	福岡県東区土井1-25-7 ケアレジデンス青葉1F (電 話) 092-691-1036		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年8月31日

【情報提供票より】(平成20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算	9.9人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	6 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり 1500 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.2 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原土井病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいやし屋本舗は、原土井病院の関連施設である、高齢者専用マンションの1階に位置したホームである。同階に系列のデイサービスがあり、合同でのレクリエーション等が日常的に行われている。「九人九色の暮らしをサポート」を理念に掲げ、ご利用者1人ひとりに合わせたケアや支援が行われ、毎月の行事以外にも、個別の外出支援も行われているホームである。ご利用者の体調管理の一環として、ゲルマニウム入りのお風呂に入っていたり、びわ灸などが取り入れられ、ご利用者の楽しみの1つとなっている。代表は職員の育成にも力を入れておられ、目標や夢を持ってケアにあたるよう日々職員に指導をされている。近隣の同業者との関わりも多く、合同の運動会に向けた準備が着々と進行中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果に基づき、アセスメントの見直しや家族会の実施、確認のためのサインの徹底など、改善に取り組んできた。苦情相談窓口として、国保連合会や地域包括支援センターの窓口の紹介も行われた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 副施設長が、「良いところも悪いところもありのままを外部の方に見ていただき、見直しましょう」と今回の外部評価について職員に説明が行われた。自己評価を職員全員で行い検討した後、副施設長が1つにまとめた。自己評価を行ったことで、職員間での考え方の違いも把握でき、全員で意見のすり合わせをする機会にもなった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご家族・民生委員・町内会長・地域の医師・ケアマネ等の参加のもと、2ヶ月に1回開催されている。ホーム内で気付いたことを助言していただいたり、町内会への加入を勧めていただいたりしている。参加者より、沢山の意見をいただく中で、「運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらってはどうか」と意見をいただき、会議開催日を検討して参加していただけるようになった。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 毎月の“ホームだより”や、写真を掲載したご家族向けの新聞“やさしい”に、ご利用者の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動などを掲載して、ご家族来訪時に渡し、口頭でも報告されている。ご利用者個々に合わせた報告が行われており、健康状態に変化があれば、随時電話で報告がされている。ご家族から頂いた意見は、連絡ノートに記入して必要時はミーティングで話し合いがされている。ご家族から、「消火栓の近くにソファを置くのは必要時に使えないのでは」と助言を頂き、早速ソファの位置を変更された。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 午後はデイサービスのご利用者と同様にレクリエーションが行われている。地域のボランティアの方の訪問も多く、地域の方がデイサービスの場所を利用してびわ灸を受けた後、ホームに来てお茶会に参加されたりしている。地域のお祭りに参加したり、運動会の見学に行ったりしている。公民館で行われる文化祭に、ご利用者の作品を展示したり、ホームで行われる行事に地域の方をお呼びするなど、地域の方々との交流が盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で理念についての意見を出し合い、沢山の意見の中から、「九人九色の暮らしをサポート」という理念を掲げた。理念の文言は短いですが、言葉の中には“個々を大切に、1人ひとりに寄り添ったケアを提供し、地域との関わりを通して本人らしい生活を提供していく”という意味が込められている。ご利用者が地域に溶け込んだサービスを受けられるよう職員全員で取り組みを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや日々の業務の中で、“九人九色の個性を大切に”という意識を持って意見交換がされている。個別ケアについての話し合いがよくされており、話し合ったことは連絡ノートに記入して、職員全員でケアの統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	午後はデイサービスのご利用者と合同でレクリエーションが行われている。地域のボランティアの方の訪問も多く、地域の方がデイサービスの場所を利用してびわ灸を受けた後、ホームに来てお茶会に参加されたりしている。地域のお祭りに参加したり、運動会の見学に行ったりしている。公民館で行われる文化祭に、ご利用者の作品を展示したり、ホームで行われる行事に地域の方をお呼びするなど、地域の方との交流が盛んに行われている。	○	老人会のグランドゴルフへも参加しているが、暑い時期などは体調を考慮してお休みされている。外出好きにご利用者が多く、地域の方々との交流が図れる場をもっと探して参加していきたいと職員は考えられている。更なる取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に基づき、改善に取り組んできた。副施設長が、「良いところも悪いところもそのままを外部の方に見ていただき、見直ししましょう」と今回の外部評価について職員に説明が行われた。自己評価を職員全員で行い検討した後、副施設長が1つにまとめた。自己評価を行ったことで、職員間での考え方の違いも把握でき、全員で意見のすり合わせをする機会にもなった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・民生委員・町内会長・地域の医師・ケアマネ等の参加のもと、2ヶ月に1回開催されている。ホーム内で気付いたことを助言していただいたり、町内会への加入を勧めていただいたりしている。参加者より、沢山の意見をいただく中で、「運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらってはどうか」と意見をいただき、会議開催日を検討して参加していただけるようになったが、ご利用者の会議への参加にはまだ行われていない。	○	会議に、ご利用者は参加されていない。制度上、ご利用者も会議の参加メンバーの一員に位置づけられており、実際にサービスを利用されているご利用者から意見を頂くことで、参加者に、より現状を理解して頂け、課題への解決方法の検討においても、現場に即した話し合いが更にできていくと思われる。短時間の参加からでも良いと思われ、日々の暮らし振りをご利用者に話して頂くなど、ご利用者に負担のかからない参加の仕方を検討してみてもいいかであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや社会福祉協議会へ“ホームだより”を送ったり、手渡しして、ホームの情報提供を行っている。区役所の担当者に分からないことを相談することはあるが、積極的な情報提供を継続的に行うまでには至っていない。	○	事業所が抱える課題や問題が発生した場合に、区役所の担当者と共に課題解決にむけた取り組みが行えるように、日頃からホームの現状をお伝えするなどの、関係作りをされておかれる事を期待したい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を2名の方が利用されている。他1名の方も手続きの最中である。副施設長が制度に関する外部研修に参加して、職員に伝達研修が行われた。ご利用者・ご家族にも制度を理解していただくために、行政書士の方をお招きして、家族会の場を利用して、制度についての説明が行われた。ホーム内にパンフレットを備え付け、全ご利用者・ご家族にもお渡しされている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の“ホームだより”や、写真を掲載したご家族向けの新聞“やさいも”に、ご利用者の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動などを掲載して、ご家族来訪時に渡し、口頭でも報告されている。ご利用者個々に合わせた報告が行われており、健康状態に変化があれば、随時電話で報告がされている。金銭に関しては、出納帳のコピーを請求書送付時に同封して、ご家族来所時に報告して、サインしていただいている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者に無記名アンケートを行ったり、意見箱をホーム内に設置したが、意見箱に投函はなく、ご家族より“こそこそせんで、直接言うからいい”といわれ、意見箱は撤去された。ご家族から頂いた意見は、連絡ノートに記入して必要時はミーティングで話し合いがされている。グループホームの評判を落とさないようにと、親身になって助言して下さるご家族もおられる。ご家族から、「消火栓の近くにソファを置くのは必要時に使えないのでは」と助言を頂き、早速ソファの位置を変更された。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表は基本的に職員の異動は行わない方針である。日頃から、デイサービスの職員との交流も多く、顔馴染みの関係ができているため、職員の退職でデイサービスからの職員の異動があっても、ご利用者に混乱は見られていない。基準以上の人員配置にしたり、食事作りを外部に委託して、職員の負担を減らし、ご利用者と接する時間を多くとれるような配慮がされている。また、休みの希望にも極力、応じている。職員1人ひとりに役割を持たせ、責任を持って仕事にあたってもらうことで、達成感を感じてもらうなどの取り組みが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すというようなことはしていない。代表自ら、障害をお持ちの方に“一緒に働きませんか”と声をかけておられる。意欲があって、前向きな方を採用されている。代表は職員に対して、“目標を持ってやりなさい・夢を持ってケアにあたりなさい・ここを拠点として、羽ばたきなさい”と職員の資格取得やスキルアップに力を入れ、代表自ら講師となり、試験前に研修会を開くなどの支援も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修に職員が順番に参加し、伝達研修も行われている。ご利用者への言葉かけなど“おかしい”と感じたときは、その場で副施設長が指導を行っている。人権に関する内部研修も行われている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、看護学校の講師やヘルパー研修の講師をされている関係で、職員の育成に積極的に取り組んでおられる。職員へ研修の受講を促したり、資格取得への勤務調整等の配慮が行われている。毎月の勉強会に加え、2ヶ月に1回法人内他事業所や他の事業所との合同勉強会も行われている。看護師や准看護師、介護福祉士の学校に通いながら勤務している職員もおられ、職員のレベルに合わせた教育計画に元づき、職員の育成に向けた積極的な取り組みが行われている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は同業者との交流の必要性を認識されて、協力医療機関の系列の施設や同法人内の他施設、近隣のグループホームなど、8施設との交流が盛んに行われている。合同の研修会や勉強会、運動会や合同レクリエーション、相互訪問も実施され、電話での日常的な情報交換も行われている。2ヶ月に1回のグループホーム協議会への参加もある。副施設長は現在、管理者研修会に出席されており、他のグループホームの管理者から貴重な意見が聞かれることで、連携作りに取り組んでおられる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、副施設長がご利用者のご自宅を数回訪問して、その後ホームの見学や体験利用をさせていただいたりしている。入居してすぐ、ご利用者に不安が見られる場合は、職員の顔が見えるリビングに布団を敷いていただき、心配ないことを伝えと共に、安心していただくように、そばで見守りを行っている。新しいご利用者には、職員が1対1でかかわる時間を多く取り、居室でゆっくりお話を聞くなど、スキンシップを図るような配慮も行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の風習やことわざ、歌などをご利用者に伺って、教えていただいたり、梅干しやらつきよのつけ方なども教えていただいている。職員が夜勤明けの時に、“私たちのためにありがとうね”“寝ないで大変ね”“車の運転は気をつけなさいね”など、ねぎらいの言葉をいただき、この仕事をやってよかったと実感させられる。ご利用者と一つの物を一緒に作り上げた時やハピリをがんばっておられる姿を見て、ご利用者と共に喜んだり、感動したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご利用者・ご家族から思いや意向の確認を行い、入居後も日々の関わりの中で、1人ひとりの思いを傾聴している。月1回、ご利用者にアンケートをお願いして、・何が楽しいですか？・何が楽しかったですか？・どこに行きたいですか？・どんなことをしたいですか？など、職員が聞き取りして記入し、毎月ご利用者の意向や要望を確認している。終末期“好きな人に見守られて死にたい”とか、“家族に迷惑を掛けずにのんびり暮らしたい”などの意向が確認されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族の意向を踏まえ、主治医等の助言に基づいた介護計画が作成されている。地域の方々との交流など盛んに行われているが、課題・目標に「地域で暮らす」という視点が盛り込まれている方と盛り込まれていない方がいる。また、課題・目標が介護者からの視点に立った表現となっている。具体的なケアの手順が計画に盛り込まれているが、行っているケアの全てが介護計画に記載されていない。	○	ご利用者が望んでいる暮らし方をさせていただくためには、「何が必要か」、課題を解決する方法として、「ご利用者の趣味や関心事を活かすことはできないか」などの視点で課題分析を行ってみてはいかがだろうか。ご利用者の視点に立った課題・目標の設定をされ、ご利用者・ご家族が見ても分かる表現に置き換えられることで、ご利用者の持っている力が更に発揮できるプランになるのではないかと思われ、今後の取り組みに期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ご利用者について、月1回のミーティングでプランの内容について、検討が行われている。毎月の検討は行われているが、短期目標の期間が6ヵ月に設定されており、ご家族との見直しのための話し合いが、6ヵ月に1回となっている。	○	現在、3ヶ月に1回の見直しに変更している最中である。長期目標や短期目標の設定時期の見直しをしてみてもいいだろうか。実際には、明記されている目標期間よりも、より短い期間で見直し、ケアの変更も行われているため、各内容に応じた短期目標、長期目標の期間設定の検討を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族に代わって通院介助したり、葬祭のときに、職員が付き添ったり、短期間の入居にも応じている。ご利用者のご主人が1人暮らしで、食事バランスが保てないため、夕食はホームで食べて頂いている。医療連携体制もとられ、緊急時の対応も速やかに行われ、協力医療機関のナースにも相談しやすい関係にある。精神状態が悪化したご利用者に対して、ご家族の協力もあり、受診を続けたことで、入院せずに精神安定されたケースもあり、柔軟な対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族の希望で、以前からのかかりつけ医で受療して頂いている方と、往診があることで、ホームの協力医療機関に主治医を変更された方もおられる。個別のかかりつけ医も含め、職員が通院介助を行うようになっているが、医療機関の所在地等によっては、ご家族に依頼する場合もある。ご家族から、“私ではわからないので、一緒に来て欲しい”と要望があれば、職員が同行するようになっている。受診結果はご家族に報告されており、ご家族が同行された場合の受診結果も把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会等を通じて重度化や終末期についての話し合いの途中である。ターミナルの受け入れを予定されており、運営推進会議で受け入れることの報告がされ、今後、職員は外部研修を受ける予定となっている。ご利用者に終末期を“どこで迎えたいですか”などのアンケートが実施され、現時点でのご利用者の意向は確認が取れている。	○	ご利用者・ご家族・職員・他関係者との話し合いが行われている最中ということで、重度化や終末期に向けた方針の統一を図っていかれることを期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者のプライバシーに配慮して、トイレ誘導を行ったり、排泄中にはタオルを掛けるなどの配慮がされている。ご利用者の繰り返しの行動に対して、「さっき、しませんでしたか？」という言葉に出してしまうときがあり、月1回のミーティングで行動を振り返り、同じ失敗を繰り返さないようにしている。個人情報保護法を、職員は理解しており、個人情報に触れる話を第三者にしないのは勿論のこと、記録物の管理には充分注意し、不要になった書類はシュレッダーにかけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の集い・体操・計算ドリル・ぬりえ・びわ灸・デイスーツでのレクレーション参加など、ご利用者がお好きな事を日課に取り入れられている。ご利用者個々に、お好きな事に参加できるように、数種類のレクレーションが用意されている。ご利用者が興味を示されない場合、まずは傾聴して、ご本人の意向に応じて、空を見に屋上に一緒に上がったたり、ドライブに行くなどの個別対応がされている。ご利用者の希望やペースに合わせた対応やケアが行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の事業所が施設の厨房で調理した食事を、ご利用者と一緒に盛り付けを行っている。食器の配膳や下膳、食器洗い、テーブル拭き等にも参加して頂いている。畑の水やりをご利用者と共に行い、畑で採れた、いも・かぼちゃ・枝豆・だいこん・とまとなどを使ってホームで調理している。月2回、“作って食べよう会”の日が予定されており、ご利用者のリクエストのあったメニューを手づくりされており、楽しみの一つとなっている。屋上でカレーを食べたり、そうめん流しをして、食事を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の希望で、2名のご利用者は1日おきの入浴で、他の方は、ほぼ毎日入浴されている。体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温など、ご利用者の好みに合わせた個別対応もされている。ゲルマニウムやみかんの皮、バラの花びらを入れるなど、入浴を楽しんでいただいている。“一緒に入らんね”というご利用者の声かけで、職員も裸になって一緒に入浴することもある。ご利用者の個別の希望で、銭湯に行くなどの外出も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者1人ひとりに、“何が出来るのか”を職員は常に考えながら、ご利用者に役割をもっといただいている。洗濯物たたみや掃除、夜の戸締り、食事の仕分け、おやつ作りの手伝いなど役割が習慣化となっている。デイサービスに週1回ホームのご利用者と職員が作ったおやつを差し入れることで、デイサービスのご利用者から“ありがとう”と言われることが生きがいとなっている。職員による、びわ灸やテルミー(足のむくみ緩和のための熏し療法)もご利用者の楽しみの一つとなっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	福岡タワー見学・どんたく花バス見学・螢見学・ランチクルージング・山笠飾り山見学・マリンワールド見学など、毎月1回はご利用者全員での外出が行われている。ご利用者が入居する前から行きつけとしていた自然食品のお店への外出や仕事の関係で空港へ大好きな飛行機を見学に行く、自宅の庭へみかんを採りに行くなどの、個別の外出支援も行われている。外出を好まれるご利用者が多く、可能な限り、外出希望に添うような支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間防犯上施錠する以外は、鍵はかけられていない。マンションの同階にあるデイサービスとの境のドアは施錠されているが、ご利用者も開錠できるため、プザーが設置されている。ご利用者が外出したくなくとそわそわされるため、職員が見守りを強化したり、しばらく一緒に散歩するなどの対応がされている。近所の方々に、ご利用者1人での外出の見守り・連絡の協力依頼をしている。	○	地域の方々はもちろんのこと、地域の消防局にも、ご利用者が1人で外出された場合の対応策として、協力依頼をする予定があり、今後の取り組みに期待していきたい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災を想定した訓練を消防署の指導のもと行っている。1階のデイサービスと上階の有料老人ホームと連携して、定期的な会議が行われている。実際の災害時には、グループホームの職員が上階にお住まいの高齢者の救助にも当たる予定となっている。夜間を想定した訓練は今後の予定となっている。災害に備えた飲料水と米以外の、食料等の準備や地域の方々への災害時の協力依頼もまだ行われていない。	○	ホームのご利用者以外に、マンションにお住まいの高齢者も多い。近隣の職員が災害時には駆けつける体制にはなっているが、夜間、職員が少ない場合を想定した訓練や災害時に備えた食材の準備を外部委託の業者と話し合いをされてみてはどうか。また、近隣の住民の方々への協力依頼などを、今後検討していかれることを期待していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	マンション1階の厨房(外部委託)において、マンション全体の食事の提供が行われている。ご利用者に合わせて、食べる量や栄養バランスのとれたメニューとなっており、常食・きざみ食など対応されている。カロリー計算もされており、揚げ物など、ペーパーで余分な油は取るなどの配慮もされている。食事量については把握・記録がされており、水分量の確認もされている。水分摂取量が少ない場合は、スポーツ飲料やコーヒーなどをゼリー状にして、摂取して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マンションの1階にデイサービスと厨房、グループホームがあるため、全体に狭い感じは受けるが、“狭いながらも楽しい我が家”を目指し、家具の置き方を工夫したり、いたる所に棚を設置するなどの取り組みがされている。廊下には畳が敷かれ、ご利用者がスリッパをはかずに、靴下のまま過ごせるようになっている。ご利用者は日中、居室で過ごすことは少なく、リビングのいすやソファなど、それぞれのお気に入りの場所で過ごしておられる。	○	日ごろ使うような物が、目につくところにあり、ご利用者と共に畑で採ってきた、間引きした大根がリビングの隅の箱にある。生活感は十分感じられるが、見た目に荷物が多く見えることから、収納を更に工夫していきたいと副施設長は考えられている。ご家族や訪問者からのご意見も参考にしながら、検討されてみてはいかがでしょうか。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者・ご家族と相談して、居心地よく過ごせるよう、ご自宅で使い慣れた家具や馴染みの物を持参していただいている。大きな仏壇やタンス・いす・テレビ・写真などを持ち込まれ、ご利用者一人一人にあった個性のある居室となっている。すべての居室に3畳分の畳が敷かれており、ご利用者の希望に合わせて、自由にベットの持ち込んでもらっている。		